

授業科目	臨床栄養活動論				実務家教員担当科目	○	
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期	後期
担当教員	渡邊 和美、山田 志麻、天本 理恵						
授業概要	<p>臨床における管理栄養士は、医療スタッフの一員として専門性を活用することが求められる。医療スタッフ間で使用される医療用語（専門用語）や他職種の専門性の理解を深め、医療施設における様々な医療チームの一員としての管理栄養士の役割や業務内容を整理する。さらに、傷病者の病態・情報から栄養状態を評価・判定し、栄養計画を立案するといった臨床栄養管理業務と給食経営管理業務の関連を理解し、医療における栄養の専門家として総合的なマネジメント力を修得することを目標とする。</p> <p>なお、実務家教員として、病院管理栄養士を招聘し、第一線の臨床の場での管理栄養士の活動ならびにチーム医療での管理栄養士の専門性やその役割をより深く理解するよう促す。また、医療人としての心構えを培う。</p> <p>本科目は管理栄養士免許取得のための必修科目に位置づけられると同時に、3年次の「臨地実習Ⅱ（臨床栄養：病院実習）」を履修するために、きわめて重要な科目である。</p>						
授業形態	講義	授業方法	アクティブラーニング（PBL、グループワーク、反転授業）				
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療施設における他職種の専門性について説明できる。（DP1-1, DP1-2）</li> <li>2. 医療施設における管理栄養士の役割と専門性について説明できる。（DP2-1）</li> <li>3. 医療保険制度（診療報酬）と管理栄養士の名称独占についての関連を説明できる。（DP3-1）</li> <li>4. 医療施設におけるチーム医療と管理栄養士の活動の実際について理解できる。（DP1-2, DP3-1）</li> <li>5. 診療録（カルテ）から病態と情報を読み取り、栄養アセスメント、栄養ケアの目標設定を行い、実施可能な計画を立案することができる。（DP2-1, DP3-1）</li> <li>6. 栄養ケア計画をもとに、適切で具体的な栄養・食事療法、栄養補給法を提案することができる。（DP1-1, DP1-2, DP2-1, DP3-1, DP4-2, DP5-1）</li> <li>7. 栄養ケア記録の意義について理解し、栄養ケア記録を作成することができる。（DP2-1, DP3-1）</li> <li>8. 医療人とは何か、医療過誤を含めた医療に関する法律と管理栄養士の関わりについて理解できる。（DP1-1）</li> </ol>						
理想的レベル	標準的レベル1～8の全てを達成したうえで、知識に関しては、より詳細かつ丁寧に説明できる。さらに、これまでに修得した知識が実際の臨床の場において、どのように展開されているかを十分に理解することができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法	評価割合（数値）			備考			
試験	55%			栄養管理用語、臨床検査値、栄養成分別管理、診療報酬など			
小テスト							
レポート	15%			医療施設における栄養管理業務について			
発表（口頭、プレゼンテーション）							
レポート外の提出物	30%			臨地実習予想課題（学びたいこと、栄養指導媒体など）			

その他											
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NT21804J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
講義内容の予習復習をするとともに、臨地実習に向けての予想課題に取り組む。										4	
授業計画											
第1回	<p>テーマ：オリエンテーション（渡邊和美、山田志麻、天本理恵）、医療施設における管理栄養士の専門性について</p> <p>授業の概要、その履修方法や授業の目的、達成の目安、評価の内容と方法を理解する。</p> <p>参照ページ p2-21</p>										
第2回	<p>テーマ：医療施設における栄養管理業務について（渡邊和美）</p> <p>NST（nutrition support team）活動の紹介、NST改善症例、栄養補給法の種類と役割（一般治療食、特別治療食他）</p> <p>参照ページ p22-32、p38-55</p>										
第3回	<p>テーマ：医療施設における管理栄養士業務について（渡邊和美）</p> <p>必要な危機管理（医療安全）、診療報酬について</p> <p>参照ページ p60-61、p94-112</p>										
第4回	<p>テーマ：病院等栄養管理の基本と実際（渡邊和美）</p> <p>入院時食事療費に係る食事療養等の算定基準など（発行者：公益社団法人福岡県栄養士会）</p>										
第5回	<p>テーマ：医療施設における栄養管理業務の実際1</p> <p>（外部講師、司会：山田志麻、渡邊和美、天本理恵）</p> <p>臨床現場での栄養関連最新情報、病院実習の心得について</p>										
第6回	<p>テーマ：医療施設における栄養管理業務の実際2</p> <p>（外部講師、司会：山田志麻、渡邊和美、天本理恵）</p> <p>ケーススタディーから学ぶ臨床現場での栄養管理の実際について</p>										
第7回	<p>テーマ：医療施設における栄養管理業務の実際3</p> <p>（外部講師、司会：山田志麻、渡邊和美、天本理恵）</p> <p>管理栄養士の実践活動と医療過誤関連法律について</p>										
第8回	<p>テーマ：臨床における管理栄養士の担う役割と業務の総括、定期試験</p> <p>（渡邊和美、山田志麻、天本理恵）</p>										
テキスト	<p>寺本房子編：臨地実習マニュアル「臨床栄養学」（建帛社） ISBN:978-4-7679-0686-7</p> <p>公益社団法人福岡県栄養士会編集：「病院等栄養管理の基本と実際」</p>										
参考図書・教材／データベース	<p>栄養食事療法の実習（ISBN978-4-263-70843-9）</p> <p>臨床栄養学（ISBN978-4-263-72034-9）</p> <p>栄養ケアプロセス演習（ISBN978-4-8103-1508-0）</p> <p>その他、必要に応じて、資料を配付する。</p>										

雑誌等の 紹介	
課題に対 するフィ ードバッ クの方法	詳細については、授業の中で説明する。レポートは評価後に返却する。
学生への メッセー ジ・コメ ント	<p>本科目では、臨床（特に医療）に従事する管理栄養士の専門性、役割、業務内容を確認し、臨床栄養分野における総合的なマネジメント力を修得する必要があります。そのため、これまでに学んだ以下のような科目について、十分な知識および技術を必要とします。また毎回の講義は、特に病院実習には欠かせない内容となりますので必ず出席してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公衆衛生学」で学んだ医療保険制度</li> <li>・「解剖生理学」「生化学」「疾病診断治療学」で学んだ人体の構造・機能・傷病者の疾病のなりたち</li> <li>・「臨床栄養管理学」で学んだ一連の栄養管理業務の基礎</li> <li>・「給食経営管理論」で学んだ対象者の把握から食事提供までの流れや大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた衛生管理</li> <li>・「応用栄養学」で学んだライフステージ別の特徴や日本人の食事摂取基準の活用</li> </ul> <p>臨床の場で栄養管理を実践している管理栄養士をはじめ、様々な立場の講師を招聘し、臨床（特に医療）に従事する管理栄養士の実際について講義します。管理栄養士に必要な栄養管理業務の知識を深め、給食経営管理業務と繋げることでより実践的な管理栄養士業務の知識を獲得することが期待できます。これまで学んだ講義や実習が実際の場において、どのように展開されているかを8回の講義でしっかりと理解し、臨地実習Ⅱ(臨床栄養)へと結び付けるようにしましょう。</p>

